



瀬戸内市文化協会
平成29年2月20日発行
第13号



寒風新大窯作品 2015 (平成27)年 掛花入 森 陶岳

地域伝統文化の紹介

夏祈禱 (百万遍)

長浜地区には、五穀豊穡・家内安全を希う古来伝統の行事があり、この夏祈禱は、江戸時代の頃より初夏の風物詩として、地元住民に親しまれています。この行事は夏の時期に怨霊が害虫となって耕作被害とならぬ様に、また疫病退散を願い、子供達と数珠を繰り、お経を唱えながら地区内を回ります。昔はきちんと日付が決まっていた、数珠を繰る子供は男子のみでしたが、現在は少子化のため、地区内の子供全員のお休みに合わせ行われるようになりました。

夏には家札・牛札・辻札・前後の幟を作ります。これらは住職が作った版木を基にしたお札です。昔は各家に飼っていた牛の無病息災のために牛札も作られていました。辻札は地区の東西北と中央の辻に立てられます。当日それらを持って地区の大師堂で般若心経秘鍵をお勤めをした後、幟を前後に従え鉦・太鼓を鳴らし法螺貝を吹き、子供達が呪文(なんまいだー・なんまいだー・そりやそりや・なんまいだー)を唱えながら地区内を練って歩きました。夏祈禱は、昔から長浜地区に伝わる貴重な伝統行事で、今後とも是非続けていきたいと思えます。

(安楽院 住職 阿河 康真)



表紙 備前焼作家 森 陶岳

掛花入 高24・5 径16・8
2015 (平成27)年焼成
寒風新大窯作品

上棚で白ゴマがかり、これまでに経験したことのない不思議な現象がおこった。

参考資料(図録・森陶岳の全貌展) あくなき挑戦の軌跡―瀬戸内市立美術館発行) から

※瀬戸内市名誉市民・岡山県指定重要無形文化財保持者

会員の受賞・入選

改組
新第3回日展 入選者
奥田 利勝 (洋画)
「白無垢」
小林 直明 (洋画)
「オリブ園」

県わかば賞受賞
せとうちこども合唱団
ティンカーベル

会員募集

「瀬戸内市文化協会」の会員を募集しています。みんなで瀬戸内市の文化を育てていきましょう。

◎お問い合わせ・お申し込みは

◆教育委員会社会教育課 (34-5604)
◆中央公民館 (22-3761)
へご連絡下さい。

平成28年度 瀬戸内市文化協会役員

- 顧問 森 陶岳 岡村三平
西浦千方太 奥田桂峰
参与 黒井千左 岡崎吉三郎
会長 清水 徹
副会長 三上澄明 小林直明
事務局 松川広己
監事 森崎昭生 奥田悦代
常任理事
(清水 徹) 立岡隆子 妹尾 薫
(三上澄明) 藤間善清 梶谷 栄
大倉順恵 山下皓与 神戸淑子
奥田利勝 坂手得二 (小林直明)
岡本恭子 稲荷 作 (松川広己)
上森豊玉 小林翠玉 島 隆諦
刈屋長子 四十塚正子 小林節子
池畑富美子 横山好美 下山公子
松尾俊介 野崎 泉 馬場初根
理事 嶋村英範
95名

編集後記

本号では、本会顧問の森陶岳氏が9月に名誉市民に推戴されたのを記念して、表紙に寒風新大窯の作品を、それに関連した「古備前」について特集しました。

編集委員

- 小林直明 赤木輝美子 野崎 泉
下山公子 妹尾 薫



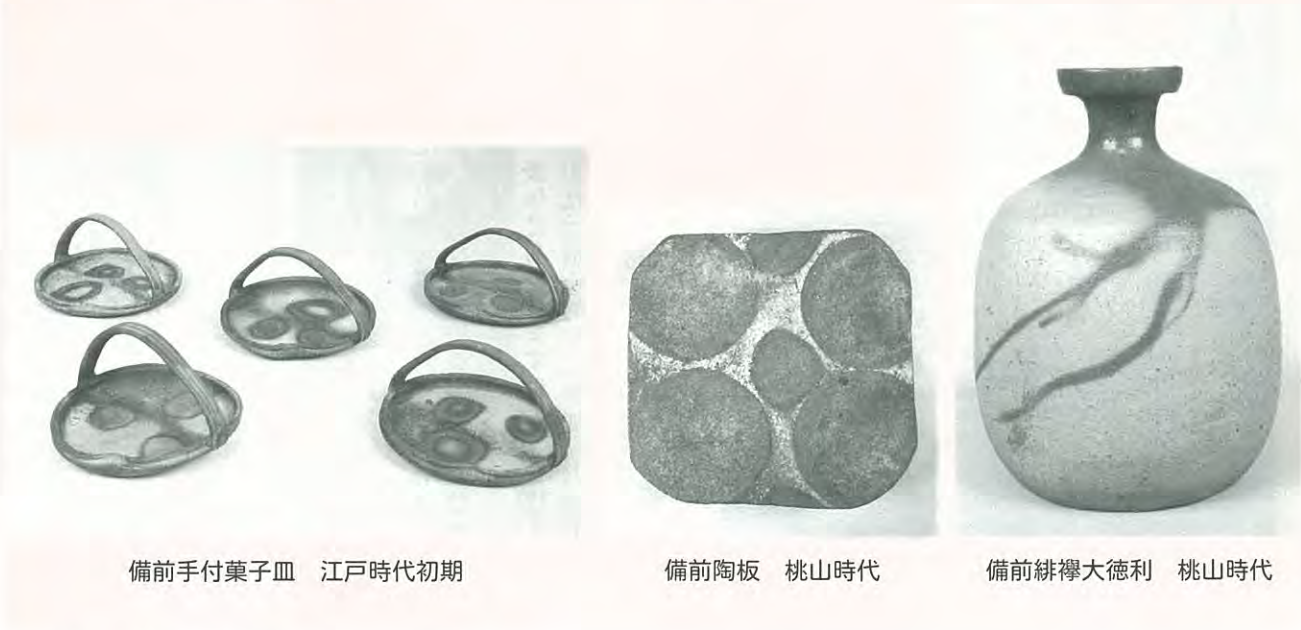
備前蕪徳利 室町時代末期 備前波状文壺 室町時代前期 備前水の子岩海底出土大壺・小壺・播鉢 室町時代初期



備前緋襷大皿 桃山時代

備前矢筈口水指 桃山時代

備前芋徳利 桃山時代



備前手付菓子皿 江戸時代初期

備前陶板 桃山時代

備前緋襷大徳利 桃山時代

〈岡山県立博物館蔵〉

古備前のみが持つ魅力

「古備前のみが持つ魅力」と云うのは、果たしてどの様なものであろうか。

それは古備前と云われるもの全体で括って見ても、あるいはその時代の一点だけを取り上げて心惹かれる共通のものがどちらにもある。それは時代が持つ力に違いないと思う。

その焼物には、明らかに「力強さ」「大らかさ」「不可思議さ」「優しさ」「潔さ」という共通した特質が備わっている。その威力は時代を大きく隔てているわれわれが見失っているが故に何かを埋めるものとして迫り来るのではないか。それは見えた目の派手さではなく、心で見える宝物として古備前は人々の心を捉えてきた。

そして日本の主たる無釉焼締陶の中で、一度も途絶えること無く生き続けてきたただ一つの焼物らしく5つの特質に加えて6つ目の「したたかさ」をも当然秘めている。それら6つの特質はまるで人間そのものの究極的理想そのもののような気がする。ならばこれほど「人間味」に溢れた焼物は他にないかも知れない。それはそうであろう、備前焼の栄枯盛衰も決して

一本調子ではなく、あの「古備前の華」である桃山備前も戦国時代の混乱と収束が無ければ生まれなかった。人間のように怒濤のような八重九重の苦節の歴史を紡いでいる。備前焼一千年と云えば、人間に置き換えれば、33世代を超えて、全てを呑み込んでいく。

しかもなお、奈落の淵からの這い上がり方もまた驚くほど人間的なものであり、決して工業製品を生み出すようなプロセスなど云えるものではない。

備前焼は他所の真似など絶対にせず、まるで常識を覆し、決して素材を高温高圧で押さえつけることもなく、ボロ土であるつと人の情熱はたっふり注ぎ、最後まで素材を殺さず、活かし切ることで信じられない高品質を備前だけが奇跡的に得ていった。

粘土の耐火温度は六古窯中最低の1200℃である。他所と同じように温度を1250℃も上げようものなら、へたり、割れてしまう、まともに勝負できない。また備前の粘土は複雑な土味を出すけれど、轆轤は引き上げにくい。焼けば傷は出来やすい。焼かなくても白地で1年も置けば、原土採掘場所次第では風化を始めてしまう。何処から見ても実に厄介な粘土である。

そのような不利な条件の中、挽回の手法は奇想天外、低温で長期間焚くこと、つまり焼物に込めた総熱量「積算温度」によるもう一方の変成技術は、素材を殺すことなく、硬さも1250℃より高品質の硬さを獲得していった。決して工業製品を作るように優等生的効率主義は取っていない。無駄を省かず、ゆっくりじっくり焼いて、得も言われぬ穏やかで素晴らしい表情の焼物を手にいれた。

備前焼だけが、土味だけで勝負できたのも幾多の弱点を利点に変えることが出来たからである。また備前粘土の埋蔵量は決して豊富ではない。しかし、備前ほと場所によって田土、山土、風化の度合い、鉱物金属成分の違いから、また組合せから磁器のような白、紫蘇色や化学反応する成分豊かな土を持っている窯場はない。備前焼だけが土味だけで勝負できるのはそのためである。

粘土総量が限られている不利でさえ、結果的に芸術作品の範疇から逸脱することもなかった。またどのように巨大なものを作っても低温で焼くために、へたらない。低温で焼くことで表面は溶けず、微量の水分、空気が入りし、素材が生きていれば、このように本体も内側から生きていく。生きていくから呼吸する。

これを水甕にすれば、水が腐らず、巨大なものは半分埋めれば、ラジエター効果で地下からの冷却効果も増し、穀物も長持ちし、鼠も上れない。

また備前の播鉢は口縁部を改良し、10枚位の重ね焼きを可能とし、窯の床に1枚ずつ並べて灰を被って摺目を潰して台無しにすることもなく、備前だけが最初にその問題も見事にクリアし、良いものを安く売ることが出来た。こうして遂には日本の経済の中心であった京畿市場の85%と云う驚異的シェアを室町初期には獲得した。一事が万事一生懸命工夫し、庶民を味方にして圧倒的に支持されたからである。続く桃山時代においても、利休らと「わび・さび」という日本の美意識の改革の旗手になっていったのである。

備前焼ミュージアム館長

白井洋輔

人と文化をつなぐ...

『つなぐ・展』は、平成24年の9月に市民や瀬戸内市文化協会の他分野との交流を深める意図で催した、陶芸家の神戸光昭・松川広己との3人コラボレーション「焼き物と現代詩展」が発展したものです。

平成29年の2月には第4回展を瀬戸内市立美術館ギャラリーSで開催します。展示は絵画・詩画文・陶芸・染色・前結び着付け・デザインの6分野、ライブは茶席・子ども合唱・箏曲演奏・フルート演奏の4分野で参加者16名(組)の予定です。

文化は単独では存在しえないという事は自明のことですが、個別に活動することが多く、他の分野との直接的な関わりは薄いのが現状です。それぞれに優れた才能・技能を持ちながら互いに刺激を受ける機会が少ないことはもったいないと思っただけこの企画を考える発端でした。この催しをとおして、人と

人とつながり、同時代を同地域で生きていることの素晴らしさを感じていただければ幸いです。この会への入会資格は特にありません。メンバーに気軽に声をかけてください。

(つなぐ会 森崎昭生)



ロビーコンサート

音楽があふれるまちづくり事業

今年に入り、公民館や図書館また美術館等のロビーを使つてのコンサートが、出来ないものかと思案してまいりました。音楽教育研究会の会員からも、それぞれの館のロビーを使用させてもらい、演奏したいとのことは、数年前から聞いておりました。

丁度、岡山県文化連盟が文化パワーアップアクション事業(年間5つ選択)を募集していましたので、応募し無事通過しました。本年度の特別展として文化協会の方でも指定していただき、感謝しております。

今の現状は、5月から月1回、土曜日又日曜日のお昼の40分程度(12時から)で行っています。月2回は必要かと思いますが、初年度は月1回で通したいと思つています。平均1回あたり2団体、15分の持ち時間で行っています。

内容も、ギター弾き語り、合唱、大正琴、器楽アンサンブル、詩吟と多岐にわたっています。プロの出演もフルート奏者、マリンバ奏者、木管五重奏団、ピアノ弾き語り、プロ・アマが参加して下さっています。

音楽があふれるまちづくり事業という点では、まだ回数が少ないかも知れませんが、公民館へ行くと、何かやっ

ているぞという感覚が、市民の皆様に通じればとの思いでやっています。極論を言えば、通りすがりの方の足を止めれば成功と思つています。決して普通の演奏会のように、お客様に来て来てという感覚のコンサートではありません。自然な市民の発表の場となれば幸いです。

来年度もやりますのでご期待下さい。また、積極的なご参加、お待ちしております。

(瀬戸内市音楽教育研究会 代表 清水 徹)



各部の活動紹介

「創立30周年」

酔聖会ウインドブラス

酔聖会ウインドブラス

音楽大好き！楽器大好き！の仲間が集まって発足し、いつの間にか早30年。先日10月9日に第30回定期演奏会を無事に終えることが出来ました。高校生から60代まで年齢も職業もバラバラのメンバーが一つの音楽を作り上げていく。それにはやはり練習だけでなく、メンバー同士のコミュニケーションも大切になります。練習の合間の休憩時間には、お茶やお菓子を囲んで楽しいおしゃべりです。いつも盛り上がっています。

このようにメンバー同、明るく楽しく練習しています。そして、定期演奏会以外にも市民音楽祭、吹奏楽の祭典、福田地区文化祭への参加、保育園などでの演奏など、地域の方々に支えられながら、たくさんの方々の演奏の場をいただけることを大変ありがたく思っています。

(藤澤 直子)



琴伝流コンサートに出演して

大正琴「遊琴子」

私たちは、月2回中央公民館で練習している、大正琴グループ「遊琴子」です。

練習の成果を発表する定期演奏会の開催や演奏技術の向上と交流を図るため、地方大会・全国大会・国民文化祭に出演しています。

今年も厳しい事前審査を通過して「琴伝流コンサート」に出場することが出来ました。全国から選ばれた42グループがNHK大阪ホールで名演奏を繰り広げました。

私たちは、日本古謡の「さくら・さくら」を演奏しました。この曲は変化に富んだ編曲でテクニクが必要でしたが、メンバーの心と音色が一つになり最高の演奏ができました。

(立岡 隆子)



楽しい句会を目指して

春潮唐琴吟社(俳句)

当グループは平成18年5月に発足し、月1回の句会を続けてきました。メンバーは7名です。平成24年に合同句集「春潮」第1集を刊行し、4年後の平成28年「春潮」第2集を発行することが出来ました。発足当初からの場松葉先生の御指導のもと俳句の奥の深さを楽しみつつ、吟行や公民館での句会を催してきましたが、選句後の披露の場では、お互いの句についての感想を語り合い、先生のお話を肝に銘じ、次会での作句に生かすべく努力しています。

なお、メンバーが高齢者ばかりなので、若い人加入して頂きたいと思っています。17文字に想いを託す俳句を楽しみましょう。

(原野 信一郎)



瀬戸内市の文化祭風景

牛窓会場

10月15日(土)～16日(日)

牛窓町公民館で公民館グループを中心に12分野の作品を展示しました。16日のステージ発表は、13団体が日頃の練習の成果を存分に発揮され、観客の皆さんを魅了しております。

なお、関連行事として、15日には「囲碁大会」・「健康チェック」・「スポーツ吹矢体験会」16日には「前結び着付け体験会」が開催され、また、午前10時から大講座室において、牛窓いきいき学級でびっくりにばこによる人形劇・くらしき作陽大学による演奏会が開催されるなど充実した2日間の日程を終了しました。



「夢二生け花サークル」の紹介

池坊

私達の「生け花教室」は発足以来11年目に突入しています。今年の4月サークル名を「夢二生け花サークル」と改名、皆さんの気持ちも少しリフレッシュされたようです。

毎月第一・第二火曜日の午後から稽古しています。四季折々の花を「自由花」「生花」の二種類で勉強しています。10月の文化祭が近づくと、皆さん、俄然張り切りますが、普段はなごやかに、和気あいあいとおしゃべり(料理・旅行・健康の話等々)をしながら楽しんでいきます。無理して頑張らなくても良いのです。長く続ける事こそ大切なのです。

家に咲いた花を摘み、ウオーキングの途中で見つけた草木を楽しみながら一瓶の花にする、その一瓶の花に心癒される時間を過ごすために勉強をします。

(小林節子)



どうぞ お茶席へ

裏千家

今年の文化祭茶席を担当させて頂きましたところ、大勢の皆様にお越しいただきましてありがとうございました。今年らしさを取り入れようと思い、お菓子は新しく出来た図書館に因んで「本」とし、市立美術館で陶岳展を開催中でしたので、花入は「陶岳の砦」を使いました。茶席の入口に柿の実の扇子を飾り、席中の霽は柿の葉を使い、「瀬戸内市の秋」をテーマにお茶席を行い、笑いの多い楽しいお席になりました。

毎年、担当は変わりますが、私達一同、工夫を凝らした楽しいお席を心がけております。椅子席も沢山の山用意を致しておりますので、どうぞお気軽に御越し下さいませ。

(池畑富美子)



花いっぱい町づくりを目指して

菊づくりを推進する会

「備前長船菊花展」は今年30周年を迎え先日1ヶ月の会期を終え無事終了いたしました。ご来場いただきました8千名を超える皆様には菊のすばらしさを堪能していただけたことと思います。

私たちの会は「市の花」である菊の栽培普及と技術の向上を目指して活動しているボランティア団体です。主な活動は、小菊苗の頒布と菊花展の開催です。また研修として毎年県外の菊花展の視察も行っています。小菊苗の頒布は、さし芽をして苗を育て実費で皆さんにお分けしています。菊花展は公民館との共催で実行委員会をつくり開催しています。



(嶋村 英範)

邑久会場

10月22日(土)～23日(日)

「音楽いっぱい文化祭」邑久会場では、ウエルカムコンサートで始まり、懐かしの流行歌コンサート等の後、市民ステージ発表では各団体・グループが日頃の練習の成果を熱演されこちらも会場全体が大盛況でした。また、市民創作展は中央公民館と市民図書館喜之助シアターで開催され、市民の皆さんが写真・書・絵画・手芸・工芸など丹精込めて作った作品を展示されていて、大勢の方が心ゆくまで熱心に鑑賞されていました。



長船会場

11月12日(土)～13日(日)

瀬戸内市では一番遅い文化祭が長船町公民館で開催されました。秋晴れのもと、菊花展も同時開催され、大勢の入場者が有意義に過ごす事ができました。

会場の展示コーナーには、公民館文化活動グループ皆さん方の一年間努力の秀作が展示され、ステージではグループ発表がありました。

また、会場内で開かれていたカフェコーナーはご来場の方に大好評でした。

会場設営では長船中学校生徒さんのボランティア活動で大活躍！生徒さん達お疲れ様でした。

